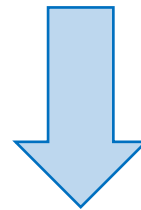


人と動物の共通感染症について

令和 7 年度福岡県動物取扱責任者研修会



人獣共通感染症（Zoonosis）とは



自然に移行



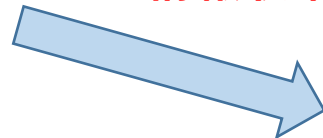
- ①人と動物両方に症状を示すもの
- ②動物は無症状だが人で症状を示すもの



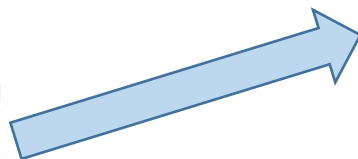
なぜ人獣共通感染症の講習を受ける必要があるの？

重要!

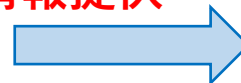
感染症法に
基づく情報収集



講習会受講で
感染症の情報収集



動愛法に基づく
情報提供



主な人獣共通感染症と伝播方法

伝播方法	例	人獣共通感染症の例
直接伝播 ・引っかけられる ・咬まれる ・触れる（糞便、飛沫等）	動物（犬や猫、鳥類、げっ歯類など）との接触	狂犬病、猫ひっかき病、オウム病、サルモネラ症、レプトスピラ症、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、カプノサイトファーガ感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 など
間接伝播	節足動物（ダニ、蚊など）が媒介	日本紅斑熱、つつが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本脳炎、デング熱、ジカウイルス感染症 など
	環境（水、土など）を介して	レプトスピラ症、炭疽、破傷風 など
	食品を介して	腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、カンピロバクター症、サルモネラ症、アニサキス症、ノロウイルス感染症 など



今回お話する人獣共通感染症

主な動物種	感染症
犬、アライグマ、 コウモリ、キツネ	狂犬病
猫	猫ひっかき病
小鳥・ハト	オウム病
ねずみ・うさぎ	レプトスピラ症
爬虫類（カメなど）	サルモネラ症
鳥（飼養鳥、家きん、野鳥など）	鳥インフルエンザ
その他（ダニ媒介）	SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病



狂犬病



●感染源

犬、ネコ、コウモリなど → **すべての哺乳類に感染**

●病原体

狂犬病ウイルス

●感染経路

唾液との接触（**咬まれる、引っかかる、傷口を舐められる**）

●動物の症状

狂騒型：攻撃的になる

麻痺型：麻痺により食物や水が飲み込めなくなる

●人の症状

・不安感、錯乱、恐水症、恐風症、高熱、麻痺、運動失調、全身けいれん
⇒呼吸障害、死亡

動物も人も発症すると100%死亡

（**⚠ 発症後の治療薬はない ⚠**）



狂犬病発生状況

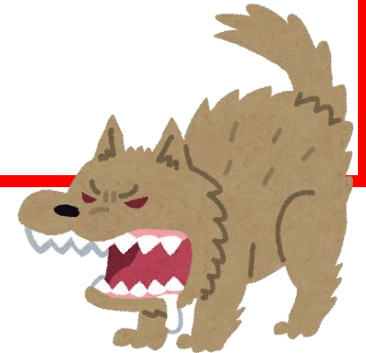


●人の狂犬病

- ・国内での発生事例
 - ・昭和31年（1956年）が最後
- ・輸入感染事例（海外で咬まれて、帰国・入国後発症）
 - ・1970年（昭和46年）→ネパールからの帰国者で1例
 - ・2006年（平成18年）→フィリピンからの帰国者で2例
 - ・2020年（令和2年）→フィリピンからの入国者で1例

●動物の狂犬病

- ・1957年（昭和32年）→猫での発生が最後

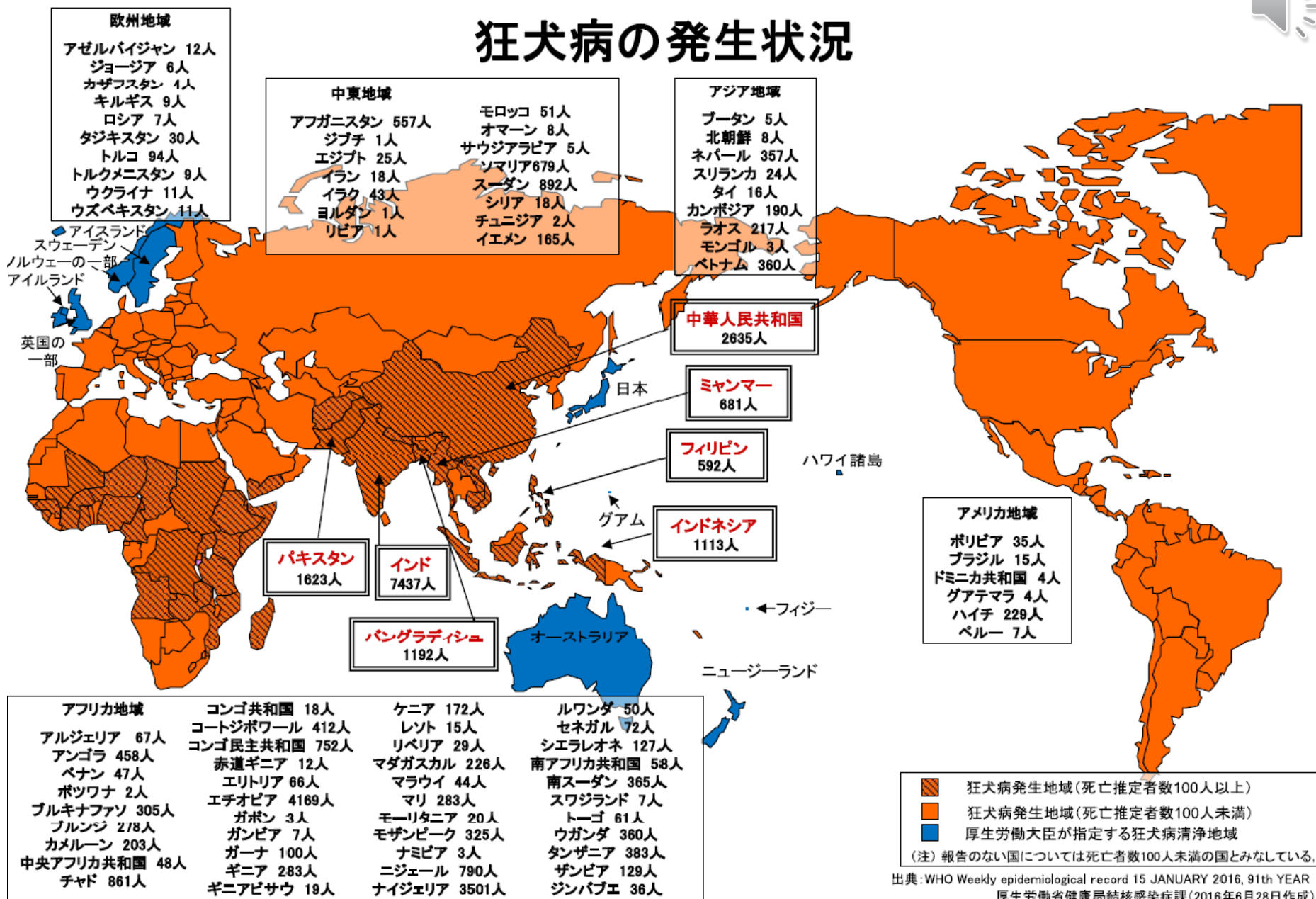


- ・世界ではまだまだ狂犬病が蔓延
- ・**予防には狂犬病ワクチンの接種が重要**





狂犬病の発生状況



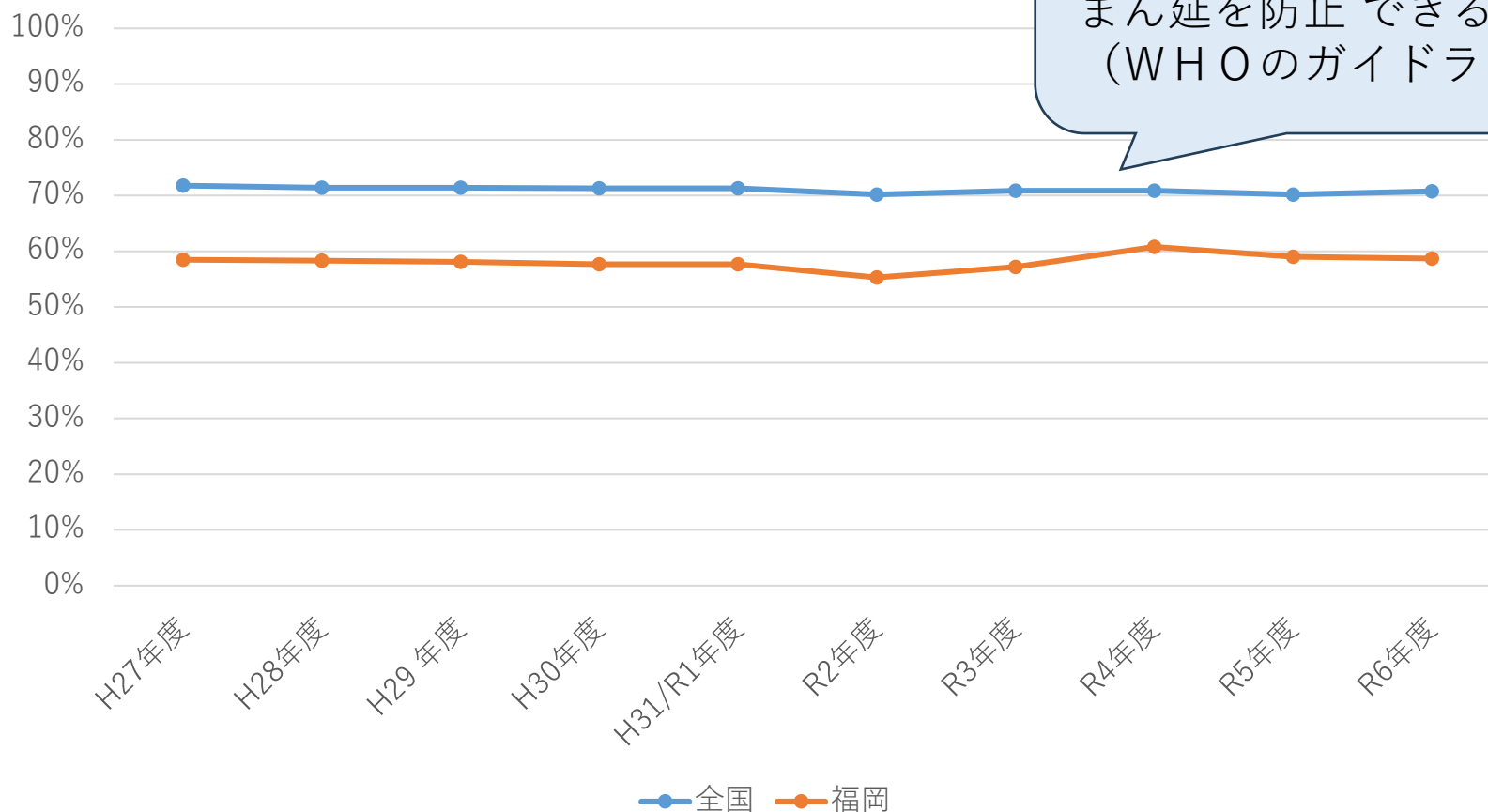
出典:WHO Weekly epidemiological record 15 JANUARY 2016, 91th YEAR
厚生労働省健康局結核感染症課(2016年6月28日作成)

出典:厚生労働省HP



狂犬病ワクチン予防接種率 (全国と福岡県の比較)

接種率70%が、
国内侵入時のウイルスの
まん延を防止できる目安
(WHOのガイドライン)



$$\text{予防接種率} = (\text{犬の登録頭数}) \div (\text{予防接種頭数})$$



猫ひっかき病



- **感染源**
猫

- **病原体**
Bartonella henselae

- **感染経路**
病原体を保有した猫から咬まれる・引っかかる・
傷口を舐められることにより皮膚から感染

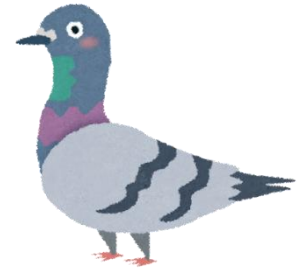
- **動物の症状**
猫では無症状なことが多い

- **人の症状**
創傷部の炎症、化膿、リンパ節の腫れ
発熱、頭痛、倦怠感

- **予防**
猫からの咬傷・掻傷を受けないよう注意する
傷を受けた場合、石鹸と流水でよく洗う
ノミから猫に感染するため、**ネコのノミ駆除**も重要



オウム病



●感染源

鳥類（オウム、インコ類など）

●病原体

オウム病クラミジア *Chlamydophila (Chlamydia) psittaci*

●感染経路

オウム・インコ類の排泄物に含まれる菌を吸い込むことや、
口移しでえさを与えたりすることで感染

●動物の症状

多くは無症状

●人の症状

1～2週間の潜伏期間の後、突然の高熱・頭痛・全身倦怠感・咳などの
インフルエンザ様症状

●予防

- ・鳥との過度な接触を避ける
- ・ケージ内をこまめに掃除、処理の際は糞が舞わないよう気を付ける
- ・給餌器や水の容器等に触った後には手を洗う
- ・健康な鳥でも保菌している場合があり、体調を崩すと糞や唾液に菌を排出し感染源になりうる→鳥の健康管理に注意



トピックス　－オウム病－

福岡県で7年ぶりの発生（2025年5月）

- ・ハトの糞をマスクなしで処理

長崎県で妊婦が感染し死亡した疑い（2025年公表）

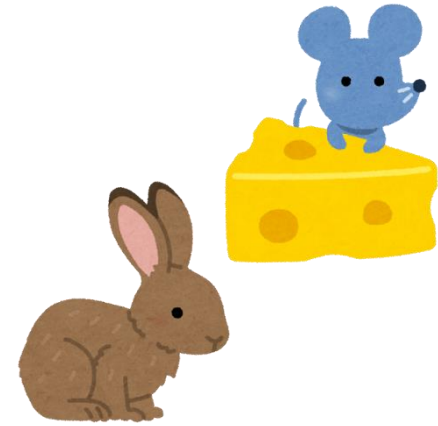
- ・妊婦は鳥を飼育していなかった。感染経路は不明
- ・妊婦は重症化しやすいとの報告がある

滋賀県で集団感染疑い（2021年）

- ・職場で集団感染が起きた疑い
- ・職場事務所の入り口がハトの糞で汚れており、菌を吸い込んだ可能性



レプトスピラ症



●感染源

ネズミ等のげっ歯類、犬、牛、馬、豚などの身近な動物

●病原体

病原性レプトスピラ

●感染経路

- ・ 保菌動物の尿で**汚染された水や土壌**から
- ・ 尿との直接接触（**傷を介して**など）
- ・ 汚染された食物を介して

●動物の症状

犬では発熱、食欲不振、嘔吐、下痢などの風邪様症状、黄疸、肝障害、腎障害

●人の症状

軽症では風邪のような症状、重症では、黄疸、出血、腎障害

●予防

- ・ 傷があるときは動物のお世話（排泄物の処理等）の際に気を付ける



リーフレットを作成し注意喚起を行っています

予防方法①

皮膚に傷があるときは
川に入らない

予防方法②

川や土壌に入るときは
皮膚を露出しない

レプトスピラ症に注意しましょう

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラという細菌によって引き起こされる感染症です。河川での遊泳やレジャーの際に感染することが多く、福岡県内でも川で泳いだ後にレプトスピラ症を発症した事例が見つかっています。



症 状

感染してから5～15日後に、発熱、頭痛、筋肉痛、目の充血などの症状が現れます。重症化すると黄疸や腎不全などの症状が出ることもあります。

感染経路

病原性レプトスピラに汚染された水や土壌と接触したり、汚染された水を飲んだりして感染します。河川での遊泳やレジャー以外にも、農作業や洪水後の作業の際に感染することがあります。

予防方法



皮膚に傷がある
時は川に入らない



川や土壌に入る
ときは皮膚を
露出しない



川の水を飲まない



雨などで増水して
いるときは川に
入らない

河川での遊水・レジャーの後、2週間以内に上記のような症状が現れた場合は、**医療機関を受診・相談**してください。

詳細な情報は県ホームページをご覧ください。

福岡県

福岡県 レプトスピラ症

検索

予防方法③

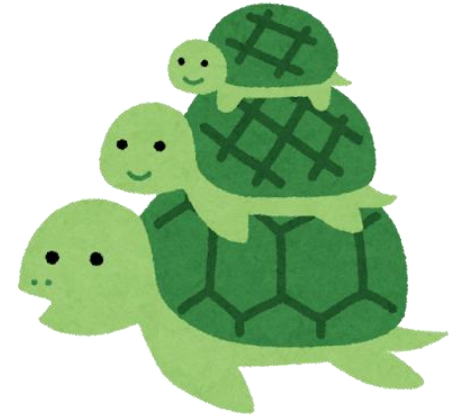
川の水を飲まない

予防方法④

雨などで増水している
ときは川に入らない



サルモネラ症



●感染源

爬虫類（ミドリガメなど）

カメ等の爬虫類の**50～90%**がサルモネラ菌を保有

●病原体

サルモネラ属菌（*Salmonella spp.*）

●感染経路

保菌している動物に汚染された食品からの経口感染

●動物の症状

無症状

●人の症状

胃腸炎症状（腹痛、嘔吐、水様下痢）

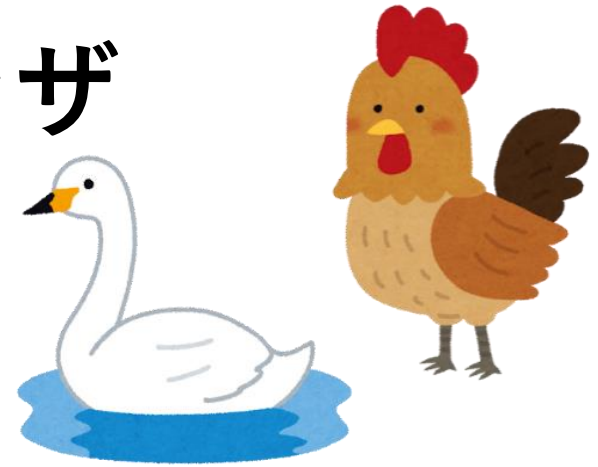
免疫機能の低い人（子どもや高齢者）は重症化しやすい

●予防

- ・ 爬虫類やケージ等にふれた後は石けんと流水で**手を洗う**
- ・ 水槽等の水替え、洗浄は台所でやらない



鳥インフルエンザ



●感染源

鳥類（水禽類など）

●病原体

A型インフルエンザウイルス

※人では、**H5N1及びH7N9**によるものを**2類感染症**に、
それ以外によるものを**4類感染症**としている。

●感染経路

感染した鳥やその排泄物、死体、臓器などとの**濃厚接触**

●人の症状

発熱・呼吸器症状など、インフルエンザ様症状

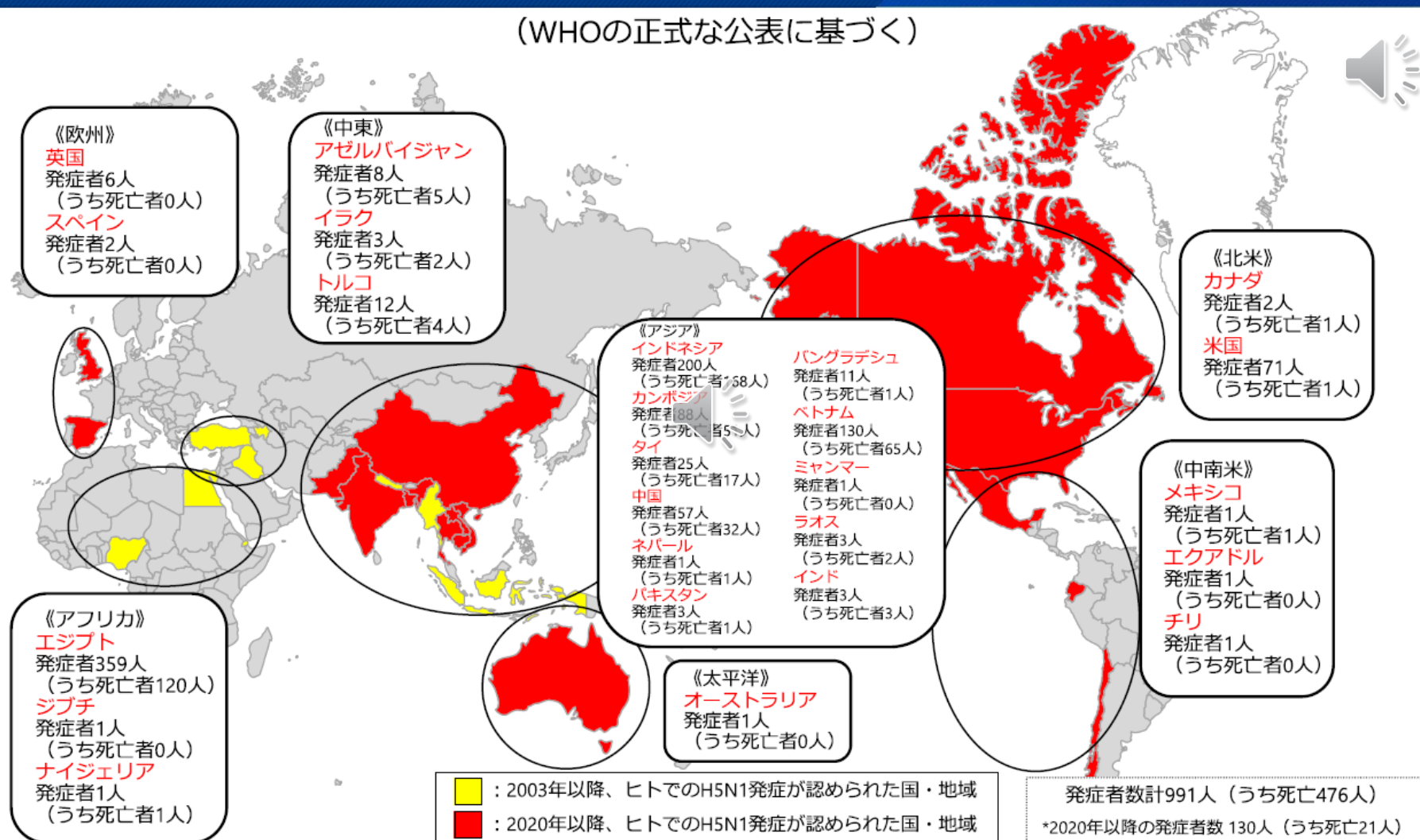
●予防

- ・鳥との**過度な接触を避ける**
- ・衰弱又は死亡した野生の鳥獣には不用意に触らない
- ・接触後は、石けんと流水で**手を洗う**



鳥インフルエンザA（H5N1）発生国・地域及びヒトでの確定症例（2003年11月以降）

（WHOの正式な公表に基づく）



ダニ媒介感染症

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）、日本紅斑熱、つつが虫病

	SFTS	日本紅斑熱	つつが虫病
感染経路	マダニに刺されて感染 犬猫の唾液や血液から人に感染する可能性も	マダニに刺されて感染	つつが虫に刺されて感染
病原体	SFTSウイルス	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫病リケッチア
症状	発熱、消化器症状、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状	発熱、頭痛、倦怠感、発疹	全身倦怠感、食欲不振、頭痛、悪寒、発熱、リンパ節の腫れ、発疹
治療	抗ウイルス薬	抗菌薬	抗菌薬
予防	感染源となるダニに刺されないよう注意する 動物がダニに刺されないよう駆除する		



吸血前と吸血後のマダニの大きさ比較



出典 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>



トピックス ―重症熱性血小板減少症候群―

SFTSの発生が、今年だけで全国184件 (2025年11月9日時点 速報値)

- ・福岡県では今年5件発生
- ・マダニの活動が活発になる春～秋にかけて発生が多い。(概ね5月～10月)
- ・これまで西日本中心の発生だったが、2025年は、これまで届け出のなかった北海道、秋田県、茨城県、神奈川県、岐阜県でも発生 →発生地域が拡大

三重県で獣医師がSFTSにより死亡 (ネコからの感染が疑われる事例) (2025年7月)

- ・発症前にネコを診療、後に当該ネコがSFTSと診断された
- ・ネコは放し飼い
- ・診療の際はネコがSFTSであることを想定した防護具の着用はしていなかった

SFTSのヒトーヒト感染症例 (2023年3月)

- ・患者を診察した医師がSFTS発症、患者はSFTSと診断された(患者は死亡)
- ・医師は、患者の死後、サージカルマスク、ガウン、一重手袋を着用し処置。針刺し事故は発生していないが、ゴーグルは着用していなかった



ダニ対策をしましょう



●ペットのダニ対策

- ・ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談
- ・ペットから外から帰宅したら、ダニがついていないか確認
- ・ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ

●ダニに刺されないポイント（人）

- ・肌の露出を少なくする（長袖、長ズボン）
- ・虫よけ剤の使用（ディート、イカリジン）
- ・明るい色の服を着る

●ダニに刺されたときの対処法

- ・ダニは無理に引き抜かず、医療機関で処置
- ・ダニに刺された後の体調変化に注意

⇒必要に応じて医療機関を受診



まとめ

過剰なふれあいは
控えましょう



動物に触ったら必ず手洗
いをしましょう



動物の身の回りは
清潔にしましょう



出典:厚生労働省動物由来感染症ハンドブック2021

人獣共通感染症を防ぎましょう

